

## ダイズベと病

### 1 病徴

葉や莢、子実に発生する。発病初期は葉の表面に淡黄白色 4～5 mm の病斑が生じ（写真1）、その後その部分が褐色になり、裏面に灰白色のカビが生じる。発生が多いと葉が萎凋したり落葉したりする。子実では表面に灰白色の菌糸が付着する（写真2）。

### 2 発生生態

6～10月に発生し、特に6～7月と9月の雨が多い時期に発生が多くなる。病原菌は糸状菌であり、罹病株内で越冬し翌年の発生源となる。風雨によってダイズに一次感染し、その後病斑上に生じた分生子により二次感染する。

密植や過繁茂により風通しが悪く湿度が高い場合や降雨の多いとき発生が多くなる。発病には品種間差がある。

本県での発生は大きな問題とはなっていないが、抵抗性の低い品種で発生が目立つ。

### 3 防除方法

罹病残渣のは場外への持ち出しや、抵抗性品種の作付がある。

薬剤による防除は発病初期から7～10日おきに数回実施する。



写真1 葉表面の病斑



写真2 子実に生じた菌叢

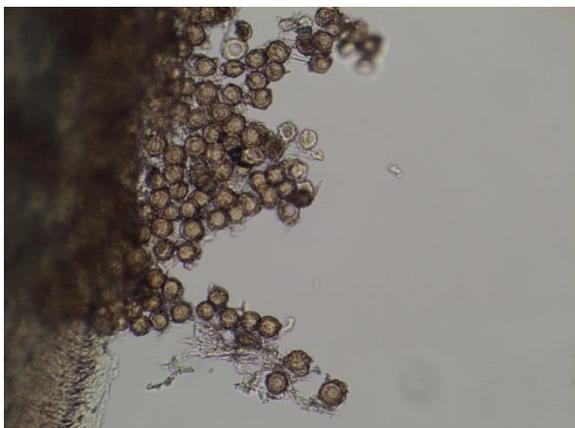


写真3 分生子と分生子柄